

LRT 2026年の動向

服部重敬

(一般財団法人地域公共交通総合研究所)

PAG03220@nifty.com

2026年1月末現在、カナダのエドモントンに始まるLRTの新規開業都市は、2025年12月30日に中国の済南に開業したことで217都市になった。前上田大会発表時の2024年3月では212都市であったので、2年の間に5都市が増えたことになる。

■2年間の動向

開業都市を国別に見るとオーストラリア、ベルギー、北朝鮮、デンマーク、中国の5ヶ国である。

2020年からとやや期間をひろげると、中国が6都市で最も多い。しかし中国では、LRT建設ブームで地方政府が自らの手柄として需要予測に基づかず、路線を建設した都市が少なからずあり、こうした都市では、速度が遅い、利用者が少ない、借入金が膨大といった弊害が顕在化した。加えて不動産不況や、それに伴う地方政府の財政悪化で、こうした路線の維持が難しくなっている。

2020年10月10日に雲南省の紅河州(蒙自)に開業した路線は、現在、運行されていない。青海省の徳令哈で建設されていた14.4kmの路線は、2020年5月に試運営を開始と報道されていたが、翌2021年4月に中止されている。また、広東州佛山の高明区に2019年12月30日に燃料電池の試験的要素をもって開業した6.6kmの路線も、燃料電池のノウハウが蓄積されたことから廃止された。2007年に天津、2009年に開業していたゴムタイヤ・トラムのトランスロールも、保守が難しかったり、軌道敷の自動車との分離が十分でなかったことなどから、運行本数減や休止を経て、2023年に正式に廃止されている。アンサルドの地表集電システムを取り入れて2017年6月に開業した珠海は、システムの不調や利用者の少なさから2021年1月に運行を停止し、2024年5月に正式に廃止が発表された。部分廃止では、瀋陽の桃仙空港への路線(2,6系統)が、2023年9月の地下鉄2号線の延伸開業に伴い、2024年10月28日迄に廃止されている。

一方、東南アジアでは台湾が積極的にLRTの整備に取り組んでおり、台北では2018年12月に開業した新北市淡水区に続き、2023年2月19日に南の安坑に、2本目のLRTが開業した。また、淡水区では、路線延伸もおこなわれている。

下表ではコペンハーゲンの1都市だけであるが、近年、LRTの建設ブームとなっているのが、フィンランド、スウェーデン、ノルウェー、デンマークの北欧4ヶ国である。2010年以降、新たに6都市で開業しており、運行都市は6都市から12都市に倍増した。さらにストックホルムで2000年1月にTvärbanan(トヴェルバナナ)と呼ばれる環状線が、引き続いて2023年10月21日にヘルシンキにヨケリ・ライトレール(Raide-Jokeri)と呼ばれる環状線が開業している。コペンハーゲンに2025年10月16日に開業した首都圏ライトレール(グレーター・コペンハーゲン・ライトレール)も環状線である。

環状型路線の目的は、既存の放射状の路線を結びつけてネットワーク化するというところにあるが、加えて、大都市圏では、大学、研究機関が郊外に拠点を設けるケースが増えており、これらを有機的に結び付けるという点も特徴である。また、基本的に新設軌道なのでスピードも速い。ヘルシンキではBRTとしてバスが運行されていたが、輸送力を高めるため軌道系が導入された。いずれも郊外部ということで、都心のような人口密集地ではないが、運行頻度は高く、利用者も多い。

また、地方都市でもLRT整備が進んでいて、デンマークでは2017年12月にオーフスにトラムトレインを取り入れたLRT、2022年5月28日にオーデンセで基幹軸のLRT、2020年12月12日にスウェーデンのルンドで5.5kmのLRT、2021年8月9日にフィンランドのタンペレで基幹軸のLRTが開業している。ルンドのLRTは距離が短いですが、ルンド中央駅とルンド大学や国際的な研究拠点がある研究開発区を結んでおり、2003

2024年4月以降のLRT開業都市

	国	都市名	開業日	路線長	分類	備考
2024年	オーストラリア	パラマッタ	2024.12.20	12.0	LRT	13 CAF Urbos 100 7車体45m
2025年	ベルギー	リエージュ	2025.4.28	11.7	LRT	20 CAF Urbos 100 7車体45m
	北朝鮮	元山(Wonsan)	2025.6.24	10.7	SC	単線ループ
	デンマーク	コペンハーゲン	2025.10.26	13.1	LRT	Avenio tbane Ishøj - Rødovre Nord
	中国	済南(山東省)	2025.12.30	36.1	LRT	11駅 車両はCRRC青島四方機関車車両有限公司

年に整備された BRT 路線からの転換であった。

■スマートホン・アプリ主体の北欧の運賃決済

北欧は、キャッシュレス化が進んでおり、市内交通のチケットも欧州でみられるような事前にチケットを購入したり、IC カードを購入したりするスタイルも縮小している。北欧での公共交通の利用方法としては、電車、バス、タクシー、シェアサイクルなど複数の交通手段を統合し、検索・予約・決済をスマホアプリ等でシームレスにおこなう MaaS が知られている。しかし、その先駆者であるヘルシンキの「MaaS Global」社は 2024 年 3 月に事業を廃止し、アプリである「Whim」は使えなくなっている。これは、ヘルシンキの公共交通サービスのレベルが高いため、MaaS のようなシステムが必要ないからという。北欧ではスマホアプリを用いた決済方法に急速に移行しており、それを補助する形でクレジットカードによるタッチ決済の導入が進んでいる。

スマホアプリによる決済システムは、事業者のアプリをダウンロードし、そこから QR コード式の乗車券を購入して、改札にあたっては光学式のリーダライタにそれを表示するのが主流となっている。乗車券の券売機は鉄道線や地下鉄駅にはあるものの、LRT の停留場にはほとんどなく、あったとしても現金の利用はできず、支払いはクレジットカードのみである。これに対して増えているのがクレジットカードのタッチ決済で、電停あるいは車内のリーダライタにタッチすることで自動的に 1 回券の運賃が課金される。なお、デンマークの都市ではタッチ決済は導入されておらず、全国共通の IC カード (Rejsekort) を乗降時に停留場に設置されているリーダライタにタッチする。

観光客が少ない地方都市になると、さらにスマホアプリの使用が進んでいる。スウェーデンのルンドの場合、車内でタッチ決済もできるが、基本はスマホアプリによるスコーネ地域交通の共通チケット購入である。当然ながら、停留場に券売機はない。ルンドでは以前は IC カードがあったが、2021 年に廃止されている。野外博物館スカンセンへのルートで観光客の利用も多いストックホルムの 7 系統の路面電車も電停や車内に券売機やリーダライタがなく、タッチ決済もできないので、スマホアプリを使えない観光客は事

前に地下鉄駅かコンビニで 1 回券か 24 時間券を購入するしかない。余談であるが、ストックホルムでは国鉄の中央駅でも有人の切符売り場はないに等しいので、否が応でもスマホを使わざるをえない。

旅行者の立場で見ると、スマホへ登録が必要な事業者のアプリは、使い方も含めてハードルが高い。多くの場合、乗車券購入の度にクレジットカードで決済するが、さらにオーフスのように登録に際し、決済情報の紐付けが必要な場合もある。オーデンセの場合、停留場に QR コードが表示されていて、それを読み込むと、アプリなしでウェブのブラウザ上でチケットの購入ができる。その都度の決済なので決済情報の登録は不要である。クレジットカードのタッチ決済が使える場合は、停留場に表示があるのでリーダライタでかざすだけで良いが、タッチ決済がない都市でも駅のキオスクやコンビニで QR コードの入った 1 回券や 24 時間券を購入できる場合がある。こうして購入した乗車券は、すぐに有効になるか、車内のリーダライタにかざして有効化する。

デンマークでは全国共通の IC カード (Rejsekort、ライゼコート) を駅のコンビニ等で購入して乗車するが、このカードは 2026 年 5 月に使用停止になることが確定しており、スマホアプリの Rejsebillet で 1 回券や 24 時間券を購入するか、クレジットカードと連動したスマホアプリの Rejsekort に移行する。スマホアプリの Rejsekort では、乗降時にホーム等のリーダライタの端末にタッチするのではなく、スマホで乗降を登録し、位置情報で移動するゾーンを計算するという仕組みとなっている。スマホを持たない地元の居住者や子供たちには専用の乗車券を貸与するという。

国名	都市名	開業年月日	運行系統	路線長	備考
フィンランド	ヘルシンキ	1891.6.21		51km	
		2023.10.21	L15	25km	
		2024.8.12	L13	4.3km	
	タンペレ	2021.8.9	1,3	14.2km	
スウェーデン	イエーテボリ	1877.7.10		80km	
	ストックホルム	1879.9.24	ノッケビー線	5.7km	開業日はストックホルム市内線
		1914.10.24	リディング線	9.2km	2015.10.24 全線更新、車両置き換え
		2000.6	30/31	18km	2017.10.2 全線開業
	ノーショーピング	2010.8.23	7	7.6km	2018.9.3 都心部へ0.4km延伸
	ルンド	1904.3.10		18.5km	
デンマーク	オーフス	2020.12.12		5.5km	
	オーデンセ	2017.12.21	L1,L2	6.5km	2019.4.30 L1運転開始
	コペンハーゲン	2022.5.28		14.5km	
ノルウェー	オスロ	2025.10.26		13.1km	
	トロンハイム	1875.10.6		42.5km	
	ベルゲン	1901.12.4	1,2	8.8km	
		2010.6.22		28.4km	

* 路線長は2025年現在